



玉島っ子だより

第 14 号 令和 7 年 2 月 4 日

文責：校長 松尾 信 広

【学校教育目標】 **たくましく まごころいっぱい しっかり考え まなびあう子どもの育成**

☞ 大雪対応へのご協力、ありがとうございます！

佐賀地方気象台の発表によりますと、日本上空に次々と強い寒気が流れ込み、9 日頃にかけて冬型の気圧配置が強弱を繰り返しながら続くそうです。佐賀県でも今週は雪マークが付いており、今後も十分に警戒が必要です。昨日「はなまるメール」にてお知らせしました通り、明日**5 日（水）**は唐津市教育委員会の判断により、**臨時休校**となりました。雪は地域によって降り方が違うので、市教委が決定することは稀なのですが、それほど警戒しなければいけないということだと思います。明日は安全第一で過ごさせてください。また、**6 日（木）以降**は通常登校の予定ではありますが、天候の状況を見ながら、浜玉中校区の 4 校で話し合っ
て判断してまいります。保護者やご家族の皆様におかれましても、**交通事故等に十分ご注意ください。**

☞ 雪の中、愛育学級へのご参観、ありがとうございました！

本日は、雪の舞い散る中、愛育学級（授業参観）にご来校いただき、誠にありがとうございました。各教室では、1 年間の**振り返り**をしたり、**感謝**の気持ちを伝えたり、**日常の学習**を見てもらったり、**ゲーム**を通して学びを深めたりしました。**今年度最後の授業参観**となりましたが、お子さんや学級の様子はいかがだったでしょうか。今年度もいよいよ 2 か月を切りました。子ども達が自分の力を伸ばしつつ、来年度に向けての**心と体の準備**ができるように、支え、育ててまいります。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



☞ 阪神・淡路大震災から 30 年。放送にて子ども達に伝えたこと。

今年の 1 月 17 日は、阪神・淡路大震災からちょうど 30 年。このときに子ども達に伝えたいことがありましたので、次のような放送を行いました。

4 日前にも九州南部で地震が起こって佐賀県も揺れましたが、今から 30 年前の今日、1995 年 1 月 17 日の朝早く、**阪神・淡路大震災**がおきました。神戸市の中心部から淡路島では、震度 7 を記録しました。ちなみに、震度は 7 より大きいものはありません。強い揺れはわずか 15 秒間。それだけで、神戸市内だけでも 67,421 戸の家が壊れました。さらに、地震後に起きた火事によっても被害がひろがり、なくなられた方、行方がわからない方、けがをした方は、合計で 50,229 名のぼりました。電気と水道は市街地を中心にほぼ全部止まり、電話も多くの人が通話できなくなりました。高速道路が倒れて、全面通行止になるなど、計り知れない被害を受けました。

もうわかったと思いますが、今、目の前にある給食は、**当たり前ではない**のです。となりに友だちや先生がいることは、帰ったら家があることは、温かい布団で寝ることができるのは、**当たり前ではない**のです。だから、すべてのことに**感謝**をし、「ありがとう。」と言葉で伝えながら**支え合える玉島っ子**になってください。きっとそのことが、何かが起こったときに自分や多くの人の**命を守る**ことにつながるはずです。そして、そんなときに自分で自分の命を守る**たくましさ**と、誰かに頼りたいときに「**助けて。**」と言える**強さ**をもってほしいと思っています。大震災からちょうど 30 年経った今、皆さんに伝えたいことを放送しました。

この機会に、子ども達には災害に対する心の備えと、自分を支えてくれる人への感謝の気持ちをもって生活して欲しいと思います。ご家庭でも災害に対する心構えや具体的な備えについて話し合われてみてください。

